

感覚教育について

人間の子どもは他の動物と比べると、未成熟の早産の状態で生まれてきます。ですから、生まれてから数年の間は、感覚器官（主に手）を使って周りの環境を吸収しながら自分自身を完成させていくのです。

モンテッソーリの感覚教具は、周りの雑多な環境から子どもがひとつひとつの感覚を取り出して、体験できるようにデザインされています。

☆清心幼稚園にある感覚教具の中から例をあげてみましょう!!

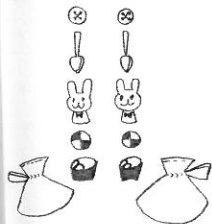
ピンクタワー ☆大きさの差だけに子どもの注意が集中するように作られています。



- ◆共通する点は...
 - ・木製で桃色である。
 - ・全ての形が立方体である。
- ◆違う点は...
 - ・一辺が10センチの立方体から1センチづつ辺が短くなり、10個目は1センチの立方体になるだけです。

⇒ この10個の立方体を大きい順に何度も積み重ねて塔を築くことを通して、子どもに大きさの違いを視覚を通して識別させるのです。

ひみつ袋 ☆一つの袋の中に見なくても触って違いが分かる品物を入れて、袋からだして分類していきます。



- ☆まず先に出す人を決め、その人が袋から出したものと同じものを袋の中を見ないで手探りで出して対にならべていきます。
- ☆この活動のねらいは触覚の中でも触って立体を把握する力を育てることです。

⇒ 他に4種類あり、全部で5種類の袋があります。どれも指先で触って物体を認識する遊びです。

他にもまだまだ感覚教具はあります。

<視覚>

- ピンクタワー → 大きさ
- 茶色の階段 → 太さ
- 色板 → 色
- はめこみ円柱 → 量(かさ)の弁別
- 色付き円柱 → 次元による変化
- 幾何図形の引き出し → 色々な形
- 構成三角形 → 形の構成

<触覚>

- 触覚板 → 触覚
- ひみつ袋 → 実態確認
- 幾何立体のかご → 立体認識
- 重量板 → 重量

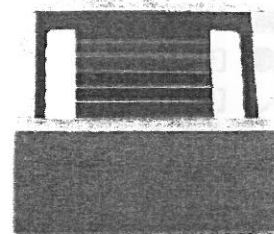
<聴覚>

- 雑音筒 → 音の違い

☆これらの教具を使って、子どもは環境の中のあらゆる体験を整理し、分類し、体系づけるのです。それは、子どもの知性に的確に働きかけることです。こうした子どもの活動は、その次の子どものさらに高度な知的生活の基盤を作ることとなります。

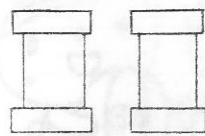
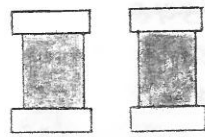
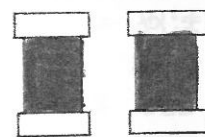
教具紹介

色板 1.....3原色（赤・青・黄）の1対で計6枚の色板が入っています。ここでは、色板の使い方と3原色の名称を知らせます。



色探し

→ 1つの色を決めて環境内で同じ色を探します。今まで何気なく見過ごしていた色に注意が向くようになります。



色集め

→ 実際にじゅうたんの上の一つの色を決め、同じ色のものを探して持ってきます。